

ウルメイワシの資源・漁業 及び資源管理について



平成26年3月
水産庁

資料の構成

1. 生態等
2. 資源の動向
3. 漁獲の状況
4. 資源管理の現状
5. まとめ

1. ウルメイワシの生物学的特性・分布・系群

系群分類:	太平洋系群、対馬暖流系群に分けられる
寿命:	太平洋系群:2歳前後 対馬暖流系群:3歳
成熟開始年齢:	いずれの系群も1歳で100%
産卵期:	太平洋系群:10～7月(盛期は2～7月と11～12月の年が多い) 対馬暖流系群:九州周辺水域では周年、日本海北部では春～夏
分布域:	



太平洋系群の分布域



対馬暖流系群の分布域

3

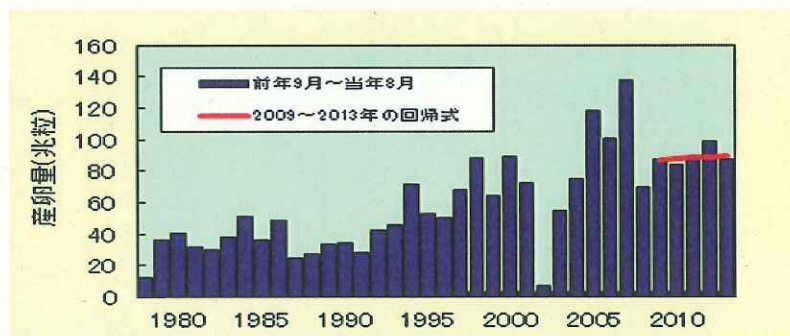
2-1. ウルメイワシの資源動向等(太平洋系群)

○ 資源水準・動向

- ・近年の産卵量の推移から、資源水準は中位、動向は横ばい。

○ 資源の特性

- ・2004年産卵期から2007年産卵期まで産卵量の増加傾向が続き、2007年産卵期にはピークの138兆粒となった。2008年産卵期には69兆粒に減少したが、2009～2011年産卵期には84兆～87兆粒と安定した。2012年産卵期には99兆粒に増加した。



産卵量の推移

○ 漁獲との関係

- ・代表的な漁業種類は、まき網、定置網等。
- ・漁獲量が高水準にあるなかで、産卵量は安定していることから、現在の漁獲圧が資源に悪影響を及ぼす可能性は小さい。

4

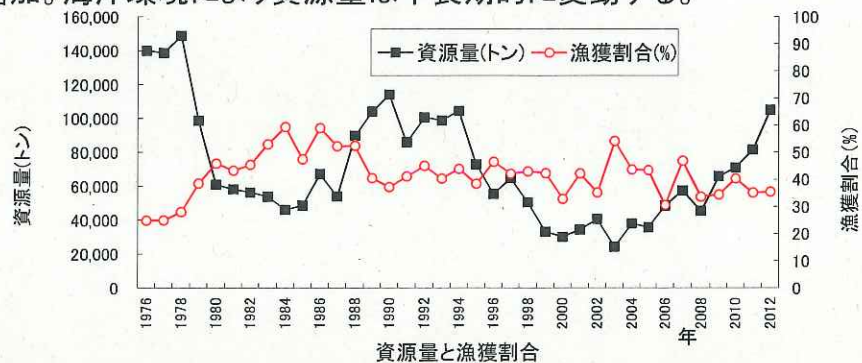
2-2. ウルメイワシの資源動向等(対馬暖流系群)

○ 資源水準・動向

- ・資源量の推移から、資源水準は中位、動向は増加。

○ 資源の特性

- ・1980年代前半にかけて資源量は減少傾向にあったが、1980年代後半から1990年代前半にかけて増加し、その後再び2000年代前半にかけて減少。2001年以降は変動しながらも徐々に増加。海洋環境により資源量は中長期的に変動する。



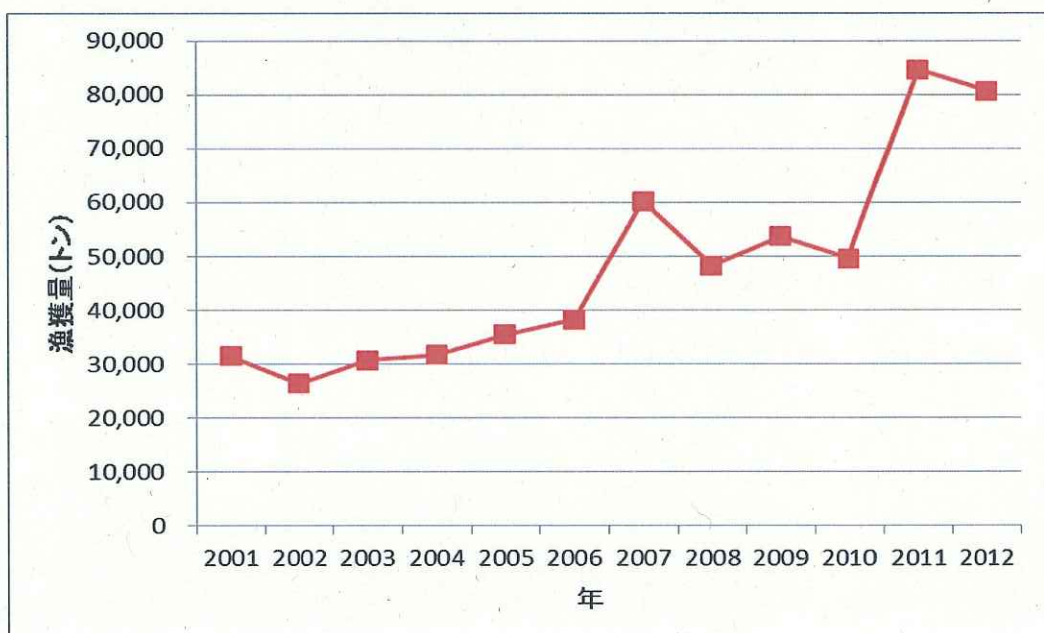
○ 漁獲との関係

- ・代表的な漁業種類は、東シナ海区(福岡県から鹿児島県)では中小型まき網、棒受網。日本海西区(福井県から山口県)では大中型まき網、中型まき網、定置網。日本海北区(石川県・富山県)では定置網などで混獲される程度。
- ・漁獲物の大半が0・1歳魚であり、資源を安定して利用するためには、親魚量を一定以上に保つことが有効であることから、加入が少ない場合は0歳魚の獲り控えなどの方策が有効。

5

3-1. ウルメイワシの漁獲量推移

- 2000年代前半は3万トン前後であったが、次第に増加し、2000年代後半は5～6万トンで推移。2011年・2012年は8万トンを超える高い水準。

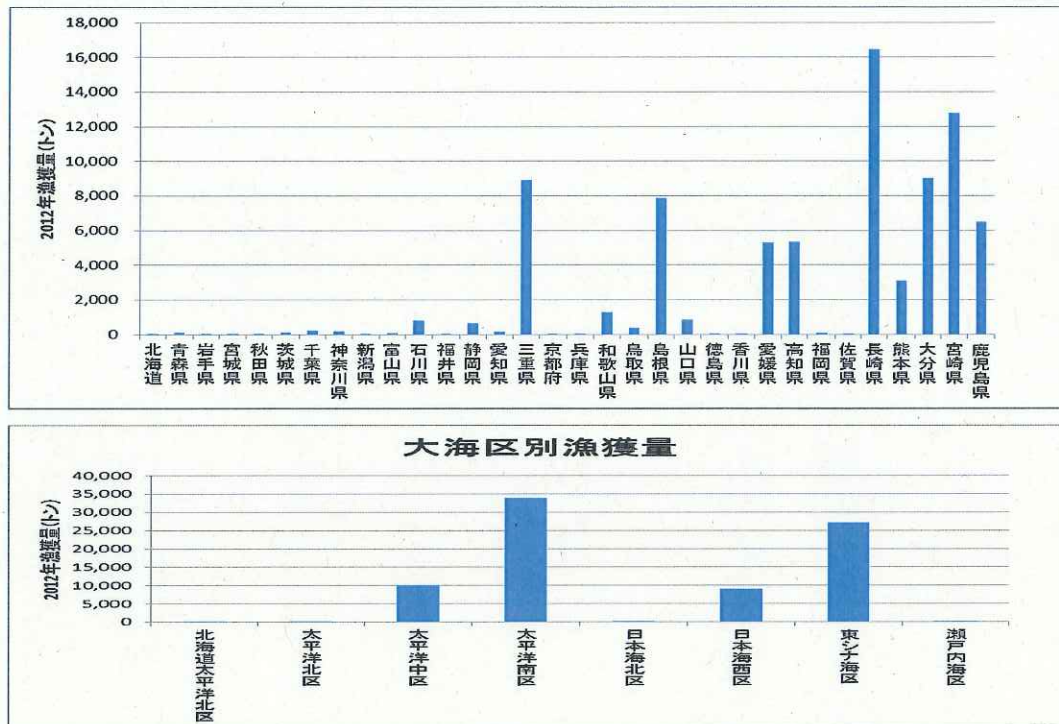


出典: 海面漁業生産統計調査より作成

6

3-2. ウルメイワシの都道府県別漁獲量

○ 太平洋沿岸の中西部及び日本海西部～東シナ海周辺の府県による漁獲が中心となっている。



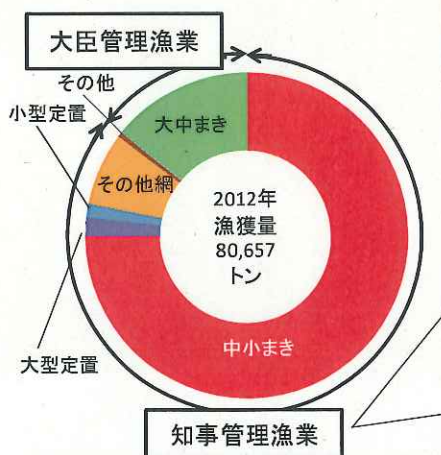
出典：海面漁業生産統計調査より作成

7

3-3. ウルメイワシを漁獲する漁業

○ ウルメイワシを漁獲する主な漁業種類は、大臣管理漁業では大中型まき網漁業、知事管理漁業では、中小型まき網漁業、大型定置網漁業、小型定置網漁業である。

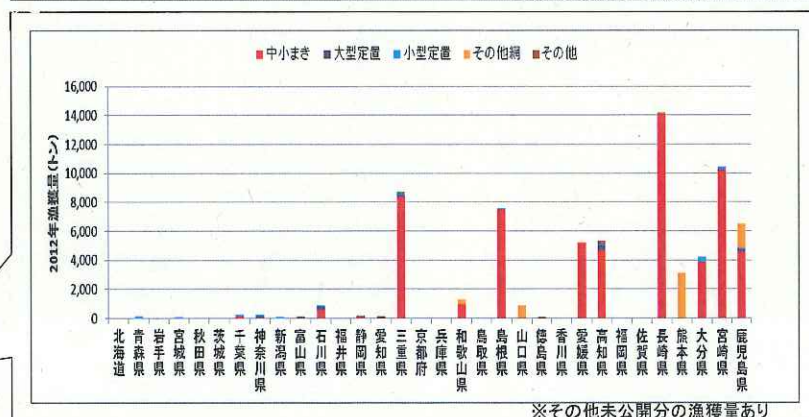
○ 近年、知事管理漁業による漁獲量が全体の8割以上を占めており、そのうち、大半は中小型まき網漁業によって漁獲されている。



出典：海面漁業生産統計調査より作成



出典：海面漁業生産統計調査より作成

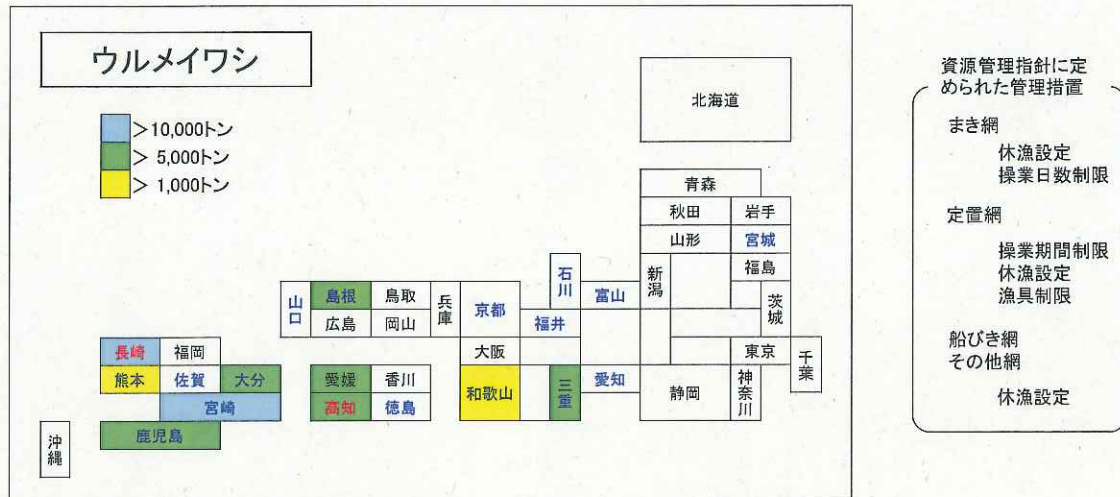


※その他未公開分の漁獲量あり

8

4. ウルメイワシの資源管理の取組状況

- 国の資源管理指針：海洋環境や漁獲の動向等をモニタリングした上で、各地域における漁業管理等の情報を共有しつつ、各地域における関係者間の協議や広域漁業調整委員会の場合などを通じて、資源管理のあり方について検討することとしている。
- 都道府県の資源管理指針：漁獲のある32道府県のうち、ウルメイワシを魚種別資源管理の対象としているのは、高知県、長崎県の2県。漁業種類別資源管理の対象としているのは、和歌山県、島根県、宮崎県など18府県。



9

5. これまでのまとめ

- ウルメイワシ太平洋系群は、近年の産卵量の推移から、資源水準は中位、動向は横ばいとなっている。
- ウルメイワシ対馬暖流系群は、資源量の推移から、資源水準は中位、動向は増加となっている。
- 沿岸域を中心に分布していることから、漁獲量全体のうち、中小型まき網、定置網等の知事管理漁業による漁獲量が8割以上を占めている。
- ウルメイワシ太平洋系群については、現在の漁獲圧が資源に悪影響を及ぼす可能性は小さいが、将来的に海洋環境が変化した際には注意を要する。
- ウルメイワシ対馬暖流系群については、漁獲物の大半が0・1歳魚であることから、資源を安定して利用するためには、漁獲圧を上げないこと、親魚量を維持することなどの方策が有効である。
- 現在、一部の府県において個別に資源管理に取り組んでいるが、広域的な資源管理の取組は特にない。

10